

# じんけんさくぶんにゆうせんさくひん 人権作文入選作品 (しょうがくせい 小学生の部)

とも  
友だちのふわふわ言葉

だざいひししょうがっこう  
太宰府小学校3年  
ねん  
ひらしま  
平島  
なぎさ  
渚

わたしが友だちとけんかをしたときの話です。

わたしは、友だちにちくちく言葉を言われたのでかっとなつて、言いかえしてしまいました。

わたしは後から言いかえさなければよかったなとうかいして悲しくなりました。わたしが落ちこんでいると、友だちが声をかけてくれました。その友だちは、

「大じょうぶ。何かあったの。」

と声をかけてくれましたが、わたしは友だちにめいわくをかけたなら悪いなと思ったので、

「大じょうぶ。」

と言いました。それでも友だちはわたしのこまっている顔を見て、

「こまっている事があつたら何でも相談してね。」

と言ってくれました。わたしは、自分のことのように心ぱいしてくれる友だちのやさしさにうれしくなりました。わたしは、

「ありがとう。」

と言って、話を聞いてもらうことにしました。

そしたら、友だちが、

「いやなことはちゃんとつたえて、言いかえたことはちゃんとあやまったほうがいいよ。」

と言ってくれました。友だちの「いやなことはちゃんとつたえた方がいいよ。」という言葉聞いて心がスッキリ

しました。

わたしは、けんかをした友だちにゆう気を出して話しかけに行きました。さつき友だちから教えてもらったことを考えて言うと、

「わたしこそごめん。ちくちく言葉言って本当にごめん。」

とあやまつてくれました。わたしは、

「今度いっしょに遊ぼう。」

とうれしくなつて言いました。

友だちが言ってくれた「大じょうぶ。」という言葉はこまつている人、悲しんでいる人をすくう言葉ということを知りました。友だちがわたしをすくつてくれたみたいに、今度べつの友だちがこまつていたら、声をかけたいです。相手のことを自分のように考えたり、元気がない友だちに、声をかけたりするかがやいているやさしさの持ち主に、声がかかりたいなって、こまつている友だちや自しんがない友だちに、ふわふわ言葉を使つてたすけてあげたいです。

## 心でつながるおばあちゃん

水城小学校4年 木戸 夏菜

私の近所に、登校しているときいつもベランダから手を振つてくれる優しいおばあちゃんがあります。

私が一年生の時から、手を振つてくれるおばあちゃんです。低学年の頃はお辞儀をするだけでしたが、今は「おはようございます」と言えるようになりました。すると、おばあちゃんからも「これから一週間頑張つてね」や「今日は友達休みなの？」と私の変化にも気が付いてくれて、いろいろな声かけをしてくれるので、とてもうれしいです。逆に、ベランダから顔を出していないときは「おばあちゃん、具合が悪いのかな」と心配になります。私だけでなく登校班のみんなも心配して話をします。でも、次の日、またいつもの様に顔を出して手を振つてくれると、ふっと安心して、「元氣そうでよかったな」

と思（おも）いながら私（わたし）も手（て）をふりかえします。また別（べつ）の日（ひ）に、パジャマを着（き）ているときは「寝（ね）起き（お）なのにわざわざ挨拶（あいさつ）してくれるなんて、とっても優（やさ）しいおばあちゃんだな」と心（こころ）の中（なか）で思（おも）います。私（わたし）と同じ道（みち）を通（とお）る別（べつ）の班（はん）や、おばあちゃんの家（いえ）の前（まえ）を通（とお）る班（はん）の友（とも）達（だち）の中（なか）でも有（ゆう）名（めい）なおばあちゃんです。おばあちゃん（わが）が私（わたし）たちの変（へん）化（か）に気（き）付（づ）くのと同（おな）じように、私（わたし）たちもおばあちゃん（わが）の変（へん）化（か）に気（き）付（づ）きます。「前（まえ）髪（がみ）を少（すこ）し切（き）られたの（の）かな」とか「あ（あ）の服（ふく）はじめて見（み）るな（な）あ」と、い（い）つも会（あ）うのが楽（たの）しみです。

最（さい）初（し）はお辞（じ）儀（ぎ）だけ（だけ）で（で）した（が）、お互（たが）に優（やさ）しい気（き）持（も）ちで（で）あ（あ）いさつ（さつ）すると、心（こころ）がと（と）ても安（あん）心（しん）し、あ（あ）た（た）か（か）く（く）なり（ま）す。六（ろく）年（ねん）生（せい）にな（な）つ（つ）ても手（て）を振（ふ）り続（つづ）け、これ（こ）れ（れ）か（か）ら（ら）も心（こころ）と心（こころ）のあ（あ）いさつ（さつ）を続（つづ）けてい（い）こう（こう）と（と）思（おも）い（い）ま（ま）す。



## 自（じ）ま（ま）ん（ん）の（の）ク（ク）ラ（ラ）ス（ス）

水（みず）城（ぎ）西（にし）小（しょう）学（がく）校（こう）4（ねん）年（ねん） 堤（つづみ） 湊（そう）明（めい）

ぼく（ぼく）の（の）ク（ク）ラ（ラ）ス（ス）に（に）は、す（す）て（て）き（き）な（な）友（とも）だ（だ）ち（ち）が（が）た（た）く（く）さ（さ）ん（ん）い（い）ま（ま）す。

た（た）と（と）え（え）ば、ぼ（ぼ）く（く）が（が）転（ころ）んだ（だ）と（と）き（き）、何（なん）人（にん）も（も）の（の）友（とも）だ（だ）ち（ち）が（が）

「大（だい）じ（じ）ょう（じょう）ぶ（ぶ）、ほ（ほ）けん（けん）室（しつ）行（こう）こ（こ）う（う）か（か）。」

と（と）言（い）っ（つ）て（て）く（く）れ（れ）ま（ま）し（し）た（た）。ぼ（ぼ）く（く）は（は）、不（ふ）安（あん）だ（だ）つ（つ）た（た）心（こころ）が（が）温（ぬ）か（か）く（く）な（な）

ま（ま）し（し）た（た）。ま（ま）た（た）、勉（べん）強（きやう）の（の）と（と）き（き）に（に）も（も）、ぼ（ぼ）く（く）が（が）ま（ま）ち（ち）が（が）え（え）て（て）い（い）

こ（こ）と（と）に（に）気（き）づ（づ）く（く）と（と）、は（は）ん（ん）の（の）友（とも）だ（だ）ち（ち）が（が）、

「こ（こ）こ（こ）は（は）こ（こ）う（こう）す（す）る（る）ん（ん）だ（だ）よ（よ）。」

と（と）やさ（やさ）しく（く）教（おし）え（え）て（て）く（く）れ（れ）ま（ま）す（す）。

「い（い）っ（つ）し（し）よ（よ）に（に）遊（あそ）ぼ（ぼ）う（う）。」

と（と）外（そと）遊（あそ）び（び）に（に）さ（さ）そ（そ）つ（つ）て（て）く（く）れ（れ）る（る）人（ひと）も（も）い（い）ま（ま）す（す）。

い（い）や（や）な（な）気（き）持（も）ち（ち）に（に）な（な）つ（つ）て（て）し（し）ま（ま）つ（つ）た（た）時（とき）は（は）勇（ゆう）気（き）を（を）出（だ）し（し）て（て）思（おも）っ

て（て）い（い）る（る）こ（こ）と（と）を（を）伝（つた）え（え）ま（ま）し（し）た（た）。言（い）う（う）ま（ま）え（え）は（は）ち（ち）よ（よ）つ（つ）と（と）こ（こ）わ（わ）か（か）つ（つ）た

け（け）ど（ど）、友（とも）だ（だ）ち（ち）は（は）ぼ（ぼ）く（く）の（の）目（め）を（を）見（み）て（て）、

「ごめんね。」

と言ってくれました。ぼくは、話して良かったと安心してしました。こんなふうには、やさしい人がいっぱいいます。

また、こんなこともありました。朝一番に、

「先生、本を読んでいたところが少しやぶれてしまいました。」と先生に相談していた友だちがいたことです。ぼくだったら、こわくて言えないかもしれないかもしれません。正直に言う勇気がすごいと思いました。正直に言ってくれたおかげで、図書の先生や次に本をかりる人もいやな気持ちにならないと思います。ぼくもまねをしたいです。

さらに、ぼくがいいなと思っていることは、発表をしたときにみんなが反のうをしてくれることです。

「なるほど。たしかに。にています。」

など反のうしてくれるので、ぼくは安心して話すことができます。自信がないときには、

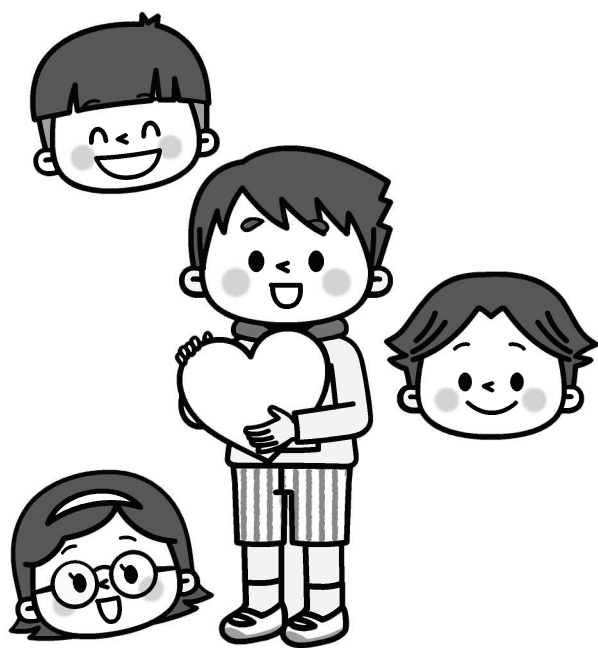
「ちょっと自信がないけど。」

とさえば、

「大じょうぶだよ。」

とみんながやさしく言ってくれるので発表する自信がわいてきます。

このように、ぼくのクラスはすてきな仲間がいっぱいいます。やさしい心、正直な心、温かくみとめる心を大切にしていきたいです。



## 命の大切さ

太宰府西小学校5年 八谷 咲葵

私は、戦争は絶対にしてはいけなと思います。わけは、何のつみもない人たちの命が戦争によつてたくさんうばわれてしまうからです。しかし、今はロシアとウクライナとの戦争が続いています。だから私たちにも今は何かできることがあるんじゃないかなと思います。

今のウクライナの人々は、戦争によるこうげきによつて家がこわされたり、家族がバラバラになってしまったりする人がたくさんいます。そしてこの戦争でたくさん人の命がうばわれてしまいます。今、私たちはほしい物が手に入り、友達といっしょに学校に行ったり、家族といっしょにご飯を食べられたり、当たり前ではないようなことがふつうに当たり前のように感じています。ところが、当たり前のように感じているのは世界のみんなとはかぎり

ません。そして、戦争でまだ小さい子でも命をうばわれてしまいます。そのことを考えると、まだ小さい子なのと心が苦しくなります。戦争のニュースを見ると、「どうして戦争をするんだろう、戦争をして何がいいのかな。」いつも思います。私は戦争の経験がないので分からないけれど、テレビやインターネットなどで調べてみると、たった一発のばくだんで大ぜいの人の命がうばわれてしまっています。ニュースで、ばくだんが落ちた街や人々の様子を見ると、見ている私もこわくなります。

人権は人が幸せに生きるためのもので、一人ひとりにあります。もし、戦争がなくなればみんなが幸せに生きられるし、世界中の人々が一つにつながって仲良くなれると思います。そして、人権が守られることによつて、幸せがたくさんふえます。一人ひとりが人権を大切にして、思いやりを持つことができたなら、未来はきっと戦争がなくなると思いました。そのために私は、仲間を大切にし、思

いやりを持つて、だれに対してもやさしい言葉をつかえるようにがんばりたいです。そうすることが、一人ひとりの人権を大切にすることにつながっていくし、思いやりを持つことが「命を大切にする」ということにもつながります。

日本に生まれた私の命も、外国で生まれた人の命も変わりはありません。世界中のみんなが手を取り合っ「平和」という目標に向かっていけば、戦争はなくなり、きつとすばらしい世界になると思います。そんな日が来ることを私は願っています。



## 家族と友達の大切さ

太宰府西小学校6年 圓山 拓海

ぼくにとって家族と友達は大切な存在です。その理由は、今まで家族や友達に何度も救われてきたからです。そんな家族や友達は、ぼくにとって心の支えです。

例えば、クラスの友達とトラブルがあった日のことです。その日、ぼくは家族に相談をしました。すると、家族から思わぬ言葉が返ってきました。

「それは、あんたが悪いやろ。」

と言っ、ぼくが悪かったことを家族はいつも指摘してくれます。別の日には、

「その子にこう言ってみたら。」

と言っ、アドバイスをしてくれます。時には厳しく、時には優しくぼくのことを見守ってくれる家族には感謝しています。

たとえば、英語の宿題で映像を撮影しなければいけないときがありました。一人ではどうしようもないときに一人の友達が快く手伝ってくれました。友達のおかげで宿題をすることができました。困ったときに助けてくれる友達にも感謝しています。

でも、自分のためにしてくれている友達や家族とも意見が食い違うときがあります。そんなとき、ぼくは、思わず暴言をはいてしまうときがあります。「けんかするほど仲が良い」という言葉がありますが、ぼくはそうは思いません。暴言を言う人は、目の前のいやなことしか見ておらず、そのときの感情のままに相手がいやがる言葉を言っています。そこでぼくが思う大切なことは、暴言を言った後にしっかりと反省をして、

「ごっきはごめんね。」

と素直にあやまることで仲が良くなると思います。それでぼくは、家族や友達に暴言をはいてしまったときはす

ぐにあやまるようにしています。そうすることが本当の「けんかするほど仲が良い」という意味だと思います。

今回、家族や友達について改めて考えることで、ぼくにとつて、良い時も悪い時も心の支えである存在だと再確認しました。そして、家族や友達をいつまでも大切にしていこうと思います。近頃のニュースで、家族同士での争いごとで命を落としたり、学校では友達同士のいじめがあるなどお互いを大切にしていない悲しいニュースをたびたび見かけたりします。世の中の人が家族や友達に感謝し、お互いが良いときも悪いときも支え合える関係ができるようになってほしいと思います。そうすることがお互いの人権を守ることなんだとぼくは考えます。



## いじりといじめ

太宰府西小学校6年 松岡 柚希

「いじめなんて絶対起こらないよ」

小学生の低学年頃、わたしが考えていたことです。しかし、だんだんと小学校で過ごすうちにこの考えは変わっていきました。そして、高学年になり、いじめといじりの違いについて考えるような体験がありました。

私の友達同士の間で起こったことです。ある日、相手のことが気に入らない子が、その気に入らない子をいじるような発言をし始めたことがきっかけでした。そして、それはだんだんとエスカレートしていきました。最初は、そのいじりで周りのみんなも一緒に笑っていました。でも、言われている子の表情は暗くて悲しい顔をしていました。私は、その子の表情を見るうちに、これは「いじりではなくいじめ」ではないかと思いはじめまし

た。この出来事から、いじめは、だれかがだれかのことをいじることがきっかけでいつのまにか始まってしまうことなんだと感じました。

以前、いじめの原因についてインターネットで調べてみました。その結果を見て私は驚いてしまいました。学校で起こるいじめの原因の九十五パーセントが「いじり」からはじまっていることが分かりました。

いじめが起きないためには、次の二つのことが大切だと考えました。

一つ目は、クラスでいじられている友達がいたら、すぐに先生に報告することです。私は、あの時、すぐに先生に報告することができませんでした。例えば、口止めされたとしても勇気を出して報告します。

二つ目は、いじりを許すような雰囲気や学級でつくりださないことです。でも、自分一人ではそんな雰囲気をつくることは難しいです。そこで、このような作文をきつ



は、石庭を作った人々の技術を高く評価していました。それは、努力を積み重ねてきた人々を差別しなくなかったからだと思います。技術を高める努力をしている人々を差別するなど、考えられなかったのだと思います。また、將軍である義政が差別をしない態度を見せることで、差別をなくしたい思いがあったのではないかと考えました。

私は、この世の中に差別はいらないと考えています。しかし、身近なところにもいじめや仲間はずれがあります。差別など、人を大切にできない行動は、人を悲しませたり家族もつらい思いをさせたりするからです。自分も仲間外れにされたことがあります。とても辛くて悲しかったから、人を助けることができる人になりたいと考えています。そのためには、自分で自分の気持ちや考えをはっきりと伝えることや、お互いに理解し、仲良くなることが大切だと考えます。そうでないと、自分や友達の

人権を守ることができないからです。

しかし、自分は本当に差別をしないことができるだろうかとも考えます。友達とけんかした時、感情的になつて相手を傷つけてしまうこともあるのではないかと考えます。そんな時は、自分のもやもやした気持ちを相手にぶつけて傷つけるのではなく、やはり、自分の気持ちをきちんと伝えたり、けんかはやめようと提案したりしたいと思います。

石庭の学習はずっと昔のことですが、義政が石庭を作った人々を大切にしたように、誰に対しても相手を敬うことを忘れずに行動していきたいと思います。



かけに、私と同じ考えの友達を増やしていこうと思  
います。

この二つのことをすることでいじめにつながるいじり  
がなくなり、いじめもなくなると考えます。

私は、高学年になりいじめに対する考え方が変わ  
りました。

「いじめは絶対起こらないことはない」

でも、防ぐことはできません。そのきっかけであるいじ  
りを許してはいけません。いじめは、どんな理由があつ  
ても許されることはありません。いじめは、人の人権  
を踏みにじるとても悲しいことです。学校は楽しい  
場所であるべきだと思います。そのためにもいじめがな  
い学校になるように自分にできることを始めていこう  
と思います。

## 大切なこと、大切なもの

太宰府西小学校6年 西島 優月季

私は、社会科の学習で龍安寺の石庭について学習しま  
した。初めて見たときに、美しいと思いました。十五個の  
石が、考えて置いてあることを知って、すごい技術だ  
と思いました。

しかし、そんな素晴らしい石庭を作った人々が、当時  
びしい差別を受けていたことを知って、どうしてそんな  
差別を受けなければいけなかったのかと、悲しい気持ちに  
なりました。また、努力して作っただけに、ひどいとも  
思いました。それでも、あきらめずに誇りをもって仕事を  
し続けた人々は、すごいと思いました。そこには、作り続  
けたという信念があったからではないかと思えます。

学習を進めていくと、当時、石庭を作っていた人々を  
大切にしたい人がいると知りました。足利義政です。義政

## 戦争のない平和な世界へ

太宰府西小学校6年 甲斐田 蓮王

ぼくは、最近ニュースを見て、ロシアとウクライナなど、今なお世界のどこかで戦争が起きていることを知りました。そして、なぜ戦争をするのだろうか、疑問に思いました。

六年生になり、社会科の学習で初めて歴史の勉強をして、人間は昔から、土地や権力をうばうために、争いをくり返してきたことを知りました。しかし、今も昔も、偉い人たちの考えで戦争が始まり、それに巻き込まれる関係のない人たちはかわいそうだと感じました。

また、差別意識も戦争に関係しているのではないかと思います。肌の色が違う人に対する差別意識や、他の宗教に対する差別意識など、自分とは違うものを受け入れようとしない姿勢が、大きな争いにつながっている

ような気がします。

ぼくは、これから戦争のない平和な世界にしていきたいと思います。世界中の人々が幸せに暮らしてほしいし、戦争によって誰かが死んでしまうようなことは、あってはいけないと思うからです。

戦争のない平和な世界にするためにはどうすればいいか、自分にできることを考えてみました。ぼくはまず、戦争の怖さやみにくさを知り、多くの人に伝えていきたいです。特に、日本は世界で唯一、原子爆弾を落とされた国です。修学旅行で原爆の恐ろしさを学び、今、核兵器を持っている国の人たちに、どれだけ恐ろしい物かということをお伝えしたいです。

もう一つ自分にできることは、言葉づかいに気をつけることです。ゲームをしているとき、ついむきになって、「死ね。」や「殺す。」というきたない言葉を使ってしまうことがあります。でも、歴史を勉強したり、ニュースを

見たりする中で、生きたくても生きられない人たちがいたことを知り、そんな言葉は絶対につかえないと思います。言葉もつかい方によっては、武器のように、誰かの心につき刺さります。この世に傷つけられていい人なんかいないと思うので気をつけたいです。

ぼくにできることは小さな事かもしれないけれど、ぼくをまねして、たくさんの方が一緒に行動してくれば、それがやがて世界中の人たちの笑顔につながるのではないかと思います。戦争のない平和な世界を目指して、これからも、もっともっと、色々なことを学んで行きたいです。そして、ぼくたちが親になったとき、子ども達も達たが暮らす世界は、争いのない世界になってほしいです。

